

## 地下鉄のバリアフリー化と料金値上げ

最近、慢性腰痛の身で足を痛めてしまい、杖をついて出歩いている。とりわけ階段が辛い。わが「杖つき物語」を記録しておきたい。

大阪市役所に資料収集や議会傍聴・陳情などで出かけることが多い。地下鉄御堂筋線淀屋橋駅で降り、エスカレーターでホームから改札、そして地上に出て、淀屋橋を渡って市役所にたどり着ける。

行きは問題ないのだが、大変なのは帰りである。写真の長い階段を手すりにつかまり、杖を頼りに時間をかけて降りる。これまでは何ともなかったことが、足を痛めて状況が一変した。駅員に下りのエスカレーターはないか尋ねると、下りはない。エレベーターは離れたところにあると。先日、裁判所の帰りにエレベーターを探したが、残念ながら見つからなかった。車椅子で市役所などに行く人は、どうされているのか気になった。

ホームから改札まではエレベーターが設置されている駅は多いが、改札から地上までは淀屋橋駅のように「バリア」があるところが多いのではないのか。

なかでも淀屋橋駅は市役所や裁判所、図書館、公会堂などが立地しており、きめ細かい対策が必要ではないか。ぜひとも対策を検討し、バリアフリー化に積極的につとめてもらいたい。

改札口に「鉄道駅バリアフリー料金制度を活用しバリアフリー化の促進に取り組みます」というパンフレットが置いてあった。地下鉄車内でしつこく案内しているものだ。2021年12月に「都市部において利用者に薄く広い負担を得て、バリアフリー化を進めること」を目的として、国により創設された鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、「ご利用者のニーズに合致した、誰もが使いやすい」最高水準のバリアフリー施設整備を実現しますと書かれている。

裏面には、4月1日より鉄道駅バリアフリー料金を運賃に加算しますと、新旧の料金表が記載されている。本来は運賃収入でバリアフリー化を進めるべきであると思うが、これは事実上の運賃値上げではないのか。

大阪メトロは「民営化」して、手広く業務を広げる一方で、駅員を削減してきている。バリアフリー化をめざすなら、ハードだけでなく、駅員の適正配置などソフト面の充実も欠かせない。無駄で過剰な投資はないのか、業務の総点検が求められる。

(2023年3月19日)

